

REPORT

モンゴル国ウランバートル 視察訪問 報告書

2026 年 9 月 15 日（火）～ 9 月 18 日（金）



日本の若手国会議員団 モンゴル視察訪問

在富山モンゴル国名誉領事館

2026 年 9 月

目次

はじめに	3
第 1 章 視察の概要	4
1-1 視察の目的と基本情報.....	4
1-2 参加メンバー	4
1-3 訪問行程	4
第 2 章 訪問記録.....	5
9:30～ 在モンゴル日本国大使館	5
10:45～ モビコム社.....	6
12:00～ モンゴル外務省.....	8
14:50～ モンゴルコーセン技術カレッジ.....	9
18:00～ バトルガ第 5 代大統領との懇談.....	11
9:00～ 新モンゴル高専技術カレッジ	12
12:00～ エンフアムガラン教育大臣との会談	14
14:00～ モンゴル国会（国家大会議）	15
17:40 頃～ INSURCO DAATGAL（日系損害保険会社）	16
第 3 章 総括と今後の取り組み.....	17
3-1 訪問全体を通じた主な論点.....	17
3-2 今後の取り組み	18
3-3 おわりに	18
資料編.....	19
資料 1 モンゴル国の基本情報.....	19
資料 2 モンゴル国会（国家大会議）の構成.....	21
資料 3 モンゴル国会議員名簿.....	21
資料 4 モンゴル要人紹介	24
資料 5 モンゴルの高専（技術カレッジ）	26
資料 6 面会者一覧	27

はじめに

本報告書は、2026 年 9 月 15 日から 18 日にかけて実施した、日本の若手国会議員団によるモンゴル国ウランバートル市への視察訪問の記録である。訪問団は衆参の若手国会議員 4 名と秘書 1 名で構成し、在富山モンゴル国名誉領事館が同行・通訳を務めた。

現地では 9 月 16 日・17 日の 2 日間にわたり、在モンゴル日本国大使館、モビコム社、モンゴル外務省、モンゴルコーセン技術カレッジ、新モンゴル高専技術カレッジ、教育大臣、国会（国家大会議）の議員、日系損害保険会社の INSURCO DAATGAL、そしてバートルガ第 5 代大統領を訪ね、政治・外交・経済・教育の各分野で意見を交わした。

訪問を通じて繰り返し示されたのは、ロシアと中国という二つの大国に挟まれたモンゴルが、日本を「第三の隣国」として厚く信頼し、人材育成、とりわけ日本式の高専（KOSEN）教育を軸とした協力を大きな期待を寄せているという点である。あわせて、エネルギーの安定供給、投資環境の整備、地方の発展といった課題についても、率直な意見をうかがうことができた。

本書では、第 1 章で視察の概要を、第 2 章で訪問先ごとの面会記録を時系列でまとめ、第 3 章で全体を通じた論点と今後の取り組みを整理した。巻末の資料編には、モンゴル国の基本情報、高専の概要、国会の構成等の参考資料と、面会者の一覧を収録している。

※本文中の敬称は省略した。所属・役職は訪問時のものである。

第 1 章 視察の概要

Outline of the Visit

1-1 視察の目的と基本情報

名称	モンゴル国ウランバートル視察訪問
期間	2026 年 9 月 15 日（火）～9 月 18 日（金）（現地での訪問は 9 月 16 日・17 日）
訪問地	モンゴル国 ウランバートル市
目的	モンゴルの政治・経済・外交の最新状況を把握し、高専を軸とした教育・技術・人的交流、議会間交流、経済協力の可能性を探る
宿泊先	Premium Hotel Ulaanbaatar

1-2 参加メンバー

氏名	所属・役職	備考
小竹 凱	衆議院議員（国民民主党・石川県）	団長
西岡 義高	衆議院議員（国民民主党・神奈川県）	政務調査会副会長・企業団体委員会事務局長／文部科学委員会
奥村 祥大	参議院議員（国民民主党・東京都選出）	文部科学委員会
河井 昭成	衆議院議員（国民民主党・滋賀県）	
坂井 カンナ	衆議院議員 小竹凱 秘書	
藤重 佳代子	在富山モンゴル国名誉領事	同行・調整
ツェデンダンバ・アムガラ	在富山モンゴル国名誉領事館 モンゴル事務局長	通訳

1-3 訪問行程

日付	時刻	訪問先	主な面会者
9 月 16 日（水）	9:30	在モンゴル日本国大使館	井川原 賢 特命全権大使 ほか
	10:45	モビコム社	越智 康博 CEO ほか
	12:00	モンゴル外務省	アジア局 オユンフー・オトゴンバートル アタッシュェ
	14:50	モンゴルコーセン技術カレッジ	ムンフオチル・セルゲレン 校長 ほか
	18:00	バヤンゴルホテル	ハルトマーギーン・パトルガ 第 5 代大統領
9 月 17 日（木）	9:00	新モンゴル高専技術カレッジ	ジャンチブ・ガルバドラフ 国会議員、ツムルバタル・オユンジャルガル 校長 ほか
	12:00	モンゴル教育省	ロブサンツェレン・エンフアムガラ 教育大臣
	14:00	モンゴル国会議事堂（政府宮殿）	ウフナー・オトゴンバヤル 国会議員 ほか
	17:40 頃	INSURCO DAATGAL（日系損害保険会社）	Tomohiko UEMURA 取締役会長 ほか

第 2 章 訪問記録

Record of Meetings

9 月 16 日（水）

9:30～ 在モンゴル日本国大使館

場所	在モンゴル日本国大使館（ウランバートル）
面会者	井川原 賢 特命全権大使 森井 怜 総務・政務班長 篠田 泉 総務・政務班／開発協力班 三等書記官
日本側	日本側訪問団（小竹団長ほか国会議員 4 名・秘書 1 名）、藤重 在富山モンゴル国名誉領事、通訳
目的	モンゴルの政治・経済・外交の最新状況をうかがい、日本に求められている役割を把握する

日本とモンゴルの関係、バランス外交

本年は日本とモンゴルの国交樹立 54 周年にあたり、来年は 55 周年を迎える。モンゴルは石油輸入の 95%をロシアに、石炭輸出の 75%を中国に頼っており、両国とのバランスを取る外交を進めるなかで、日本を「第三の隣国」として重視しているとの説明があった。井川原大使からは、こうした立場にあるモンゴルとの向き合い方について示唆に富む助言をいただき、その後の各訪問先での意見交換において大いに役立った。

国内政治、エネルギー・資源

前日の 9 月 15 日から国会が開会していること、連立政権をめぐる状況などについて説明を受けた。エネルギー面では、夏からガソリンの供給が不足し課題となっていること、ウラン開発に関して環境面への配慮が求められていることが紹介された。

高専と人材育成、日本に求められていること

モンゴルの高専は現在 6 校あり、高専の設立を目指す若者たちの活動を中心に広がってきたこと、日本財団の支援や日本の高専関係者・各地の知事の訪問があることが紹介された。日本に求められる最大のテーマは人材育成であり、このほかエネルギー・電力不足への対応（水素への関心を含む）、鉱物資源の加工、ODA の減額を踏まえた PPP（官民連携）事業への日本企業の参画、物流・流通面での特定国への依存に伴うリスクへの対応が課題として挙げられた。

主な論点

- 「第三の隣国」としての日本の役割を踏まえた対応
- 高専 6 校を軸にした人材育成・教育協力
- 電力・水素・燃料供給などエネルギー分野、鉱物資源の加工分野での協力
- ODA 減額のもとでの PPP 事業への日本企業の参画



大使館前にて



井川原大使との記念撮影



10:45～ モビコム社

場所	モビコム社（Mobicom Corporation LLC、ウランバートル）
面会者	越智 康博 CEO・取締役 OYOSHI Kota COO（最高執行責任者）
日本側	日本側訪問団（小竹団長ほか国会議員 4 名・秘書 1 名）、藤重 在富山モンゴル国名誉領事、通訳
目的	モンゴル通信市場最大手の 30 年の歩みをうかがい、日蒙の経済・デジタル分野での連携の可能性について意見交換する

30 年の歴史と信頼の基盤

モビコム社は 1996 年、モンゴル民主化後初の民間通信事業者として、KDD（現 KDDI）、住友商事、現地のニューコム社の 3 社合併で設立された。創業 30 周年を目前に、個人ユーザーの約 6～7 割を占める最大手となっている。社会主義から民主化への移行期にも日本企業が一貫して通信環境を整えてきたことが、政府・市民の日本への強い信頼につながっており、街で市民から越智 CEO に「30 周年おめでとう。通信を育ててくれてありがとう」と声がかかることもあるという。

デジタルサービスと技術戦略

国内でいち早く QR コード決済を導入し、ノンバンク・ライセンスを取得してマイクロローン（少額貸付）も行っている。通信・金融・決済を一体化した仕組みは、経済の透明性向上や業務効率化に貢献している。モンゴルはサイバーセキュリティや重要インフラで特定の国に頼りすぎない体制を求めており、日本の技術への期待が高い。乾燥した気候のため水を使った冷却が難しく、AI 用サーバーには「液冷技術」が有効であること、KDDI グループのデータセンター「テレハウス」の運用ノウハウを生かせることが説明された。政府が掲げる、再生可能エネルギーとデータセンター誘致を組み合わせた「グリーンゲートウェイ」構想では、日本の AI・省エネ技術が中心になり得るとの見方も示された。

文化・人材

モンゴル語は日本語と文法が似ており、発音の特徴からモンゴル人は日本語の細かな音を聞き取るのが得意である。主要企業のトップを務める 50～60 代には民主化初期の日本留学経験者が多く、高専教育も根付いている。また、土地や山河を敬う文化が強く、自然を大切にする日本企業はインフラ開発の面で強みを持つとの説明があった。

ビジネス環境の課題と展望

日本とモンゴルの間に租税条約（二重課税を防ぐための取り決め）がないことが、日本からの直接投資の大きな障壁になっているとの指摘があった。内陸国のため物流コストが高く、国土も広大で、越智 CEO が全国 52 店舗のうち 4 店舗を回るのに 5 日間で 3,000km を走った例が紹介された。冬の厳しい寒さや日本人学校がないことなど、駐在員家族の生活面の課題もある。一方、ウランバートルには結びつきの強い日本人ネットワークがあり、全国に拠点網を持つモビコム社は日本企業進出の足場になり得る。今後はカシミヤなど高付加価値製品の輸出拡大や技術移転を通じた協力が期待される。

主な論点

- 租税条約の締結（日本からの直接投資を進めるための法的な土台づくり）
- AI・サイバーセキュリティ・液冷データセンター等の技術協力
- グリーンゲートウェイ構想への日本の AI・省エネ技術の活用
- 物流・生活環境の課題への対応、知日派人材・高専教育を生かした協力と輸出の多角化



意見交換の様子



創業 30 周年を迎えた本社受付



越智 CEO らとの記念撮影

12:00～ モンゴル外務省

場所	モンゴル外務省（ウランバートル）
面会者	オユンフー・オトゴンバータル 外務省アジア局 アタッシュェ（アジア・大洋州のうち中国以外を担当）
日本側	日本側訪問団（小竹団長ほか国会議員 4 名・秘書 1 名）、藤重 在富山モンゴル国名誉領事、通訳
目的	日本との関係や今後の協力の方向性についてうかがい、意見交換する

担当者は外務省に 13 年勤務し、日本での 5 年間の赴任経験を持つ、日本語に堪能な方であった。

日本との交流

訪問団に対し、モンゴルの議員連盟への加入が勧められた。来年の国交樹立 55 周年に向けては、「人を基盤とし、人を中心に」交流を進める方針であるとの説明があった。

経済・インフラ・エネルギー

日モンゴル EPA（経済連携協定）が発効から 10 年を迎えたこと、中古車を含む貿易の状況が話題となった。空港の拡張と第 2 ターミナルの整備も紹介された。エネルギー分野ではガソリンと石炭が主な話題となり、ガソリンの備蓄と再生可能エネルギーが課題として挙げられた。

資源・産業、周辺国との関係

インドと協力した製油工場の整備（ナフサ等の製品を含む）、大規模鉱山オユトルゴイ、中央アジア、とくにカザフスタンとの関係についても説明があった。

主な論点

- モンゴルの議員連盟への加入の検討
- 来年の国交樹立 55 周年に向けた、人を基盤・中心とした交流
- 空港拡張、ガソリン備蓄・再生可能エネルギー、EPA 発効 10 年を迎えた経済連携



オユンフー氏との懇談



懇談の様子



記念撮影

14:50～ モンゴルコーセン技術カレッジ

場所	工業技術大学付属 モンゴルコーセン技術カレッジ（ウランバートル市バヤンゴル区）
面会者	ムンフオチル・セルゲレン 校長 新藤 篤史 客員教授 グンチンスレン・バヤルジャルガル 外交マネージャー ゲレル・ウルジーナラン キャリア担当スタッフ
日本側	日本側訪問団（小竹団長ほか国会議員 4 名・秘書 1 名）、藤重 在富山モンゴル国名誉領事、通訳
次第	来賓紹介、学校紹介（セルゲレン校長）、意見交換、校内視察、フォトセッション（玄関にて教員・学生と）

学校紹介（セルゲレン校長）

2014 年にウランバートル市内で高専教育が始まった経緯と、学生数 327 名・教職員数 55 名との説明があった。専門 5 学科（機械・建設・バイオ・電気・情報）のほか、外国語学科、一般科目学科、学生課、総務課、キャリアセンター、技術移転センター（TTC）を置く。1 年生は学科を選ばない「総合学科」で学び、2 年生から各専門学科に配属される。日本人教員が短期・中期・長期で派遣され、モンゴル人教員も日本の協力高専で授業法や実験・実習の指導法を研修している。日本語教育のほか、スピーチコンテスト、高専デザコン、ブリッジコンテスト、ABU ロボコン、プログラミングコンテスト等にも参加している。

国際交流では「さくらサイエンスプログラム」への参加や、長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学との共同実験・研究がある。4 年生は日本企業でインターンシップを行い、研修先から直接内定を得るケースもある。卒業後は日本企業・国内企業への就職、国内大学への編入、日本の大学への進学などに進む。

意見交換

日本企業で高度な現場技術や実務を学び、将来モンゴルへ技術や事業を持ち帰る「帰国還元」の考え方について意見を交わした。2014 年当時、モンゴルの高等教育法には「高専」の法的枠組みがなく、その後の法整備を経て、2023 年の教育法改正で高専卒業生への「準学士（Associate degree）」の学位授与が認められた経緯が説明された。大学と比べて実験・実習やものづくりに直接触れる実践的な教育が高専の強みであり、AI、ロボット、IoT、サイバーセキュリティなど最新技術に対応した教育についても意見交換した。卒業生のキャリア形成についても話題となり、起業にあたっては、まず企業で十分な経験と組織運営力を身につけたうえで独立することが重要との説明があった。

学校案内パンフレットより

ビジョン	「人間性・知性・実践性」を備えた、創造性豊かな思考力を持つエンジニアの育成
卒業後の進路	日本企業に就職 41%、モンゴル企業に就職 27%、国内大学に進学 11%、留学 8%、その他 13%
インターンシップ参加者	2022-23 年度 82 名（日本 53・国内 29）／2023-24 年度 79 名（日本 46・国内 33）／2024-25 年度 111 名（日本 77・国内 34）
協定校（日本）	大学：秋田大学、大阪工業大学、千葉工業大学、長岡技術科学大学、室蘭工業大学、和歌山大学 高専：木更津、鈴鹿、仙台、東京都立産業技術、苫小牧、長岡、函館、八戸、都城、群馬



校舎前にて



校長室での意見交換



意見交換の様子



展示パネルの説明



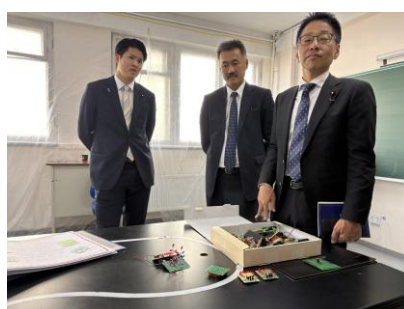
日本との交流の歩みの展示



授業の様子



実験室での説明



実習設備の説明



学生の実習（情報）



さくらサイエンスの展示と学生



学生による説明



学生による発表

18:00～ バトルガ第 5 代大統領との懇談

場所	バヤンゴルホテル（ウランバートル）
面会者	ハルトマーギーン・バトルガ 第 5 代モンゴル国大統領（2017～2021 年）、全モンゴル柔道連盟 会長 ガンビャンバ・ドゥルグーン モンゴル東部地域持続可能開発協会（NGO） 理事長（同席）
日本側	日本側訪問団（小竹団長ほか国会議員 4 名・秘書 1 名）、藤重 在富山モンゴル国名誉領事、通訳
目的	両国の「戦略的パートナーシップ」を次世代でさらに強めるため、議会交流・教育（高専）・スポーツ（柔道）を通じた交流の具体化と、地域情勢に関する情報共有を行う

議会間交流と高専を軸とした教育連携

モンゴル側は、日本の高専制度が持つ産業人材の育成力に高い関心を示した。奥村議員の通信分野の経験と文教政策の知見を組み合わせ、「通信インフラ整備と産業人材育成をセットにした日本のパッケージ支援」という交流の形について意見を交わした。衆参の若手議員がモンゴルを訪れ、現地の可能性を直接知ること、両国の長期的な信頼づくりに欠かせないとの認識で一致した。

東アジア情勢を踏まえた協力

日本側から東アジアの厳しい情勢についての認識が示され、両国がこれまで以上に緊密な政策対話と地域情勢の共同分析を行うことで、アジアの安定と発展に貢献していく方針を確認した。バトルガ元大統領からは、「モンゴルは広大であり、ウランバートルだけを見ても十分な情報は得られない」として、地方の視察を勧める助言があった。

柔道を通じたスポーツ交流

藤重名誉領事から、昨年富山県で実施したジュニア柔道交流（モンゴル人学生 9 名を招聘）について紹介した。招聘した 9 名のうち 2 名が、その後の世界ジュニア選手権（エクアドル大会）でメダルを獲得している。同大会ではモンゴル勢がフランスやロシアなどの強豪国に勝利したこと、31 競技・約 300 名の選手団による大規模な訪日計画が進んでいることも紹介された。

確認された今後の取り組み

項目	内容
ジュニア柔道交流の双方向化	次回は日本からモンゴルへジュニアチームを派遣し、バトルガ会長の指導による合同トレーニングを含む交流を行う
地方視察の実施	次回訪問では地方の視察をプログラムに組み込み、モンゴルの実情を幅広く把握する
高専を軸にした人材育成	高専制度を軸とした教育協力の、通信・インフラ分野の知見を組み合わせた連携案を文部科学委員会などで検討する
政策対話の継続	バトルガ元大統領事務所や関係機関との間で、随時情報交換できる連絡体制を維持する



バトルガ元大統領との懇談



懇談の様子



記念撮影

9 月 17 日（木）

9:00～ 新モンゴル高専技術カレッジ

場所	新モンゴル高専技術カレッジ（ウランバートル市バヤンズルフ区）
面会者	ジャンチブ・ガルバドラフ 国会議員（新モンゴル学園 創設者） ツムルバタル・オユンジャルガル 校長（博士、工学） ムンフチメグ・バトサイハン 対外関係・協力担当マネージャー ナサンバヤル・ポロルマー 新モンゴル学園 国際交流課長
日本側	日本側訪問団（小竹団長ほか国会議員 4 名・秘書 1 名）、藤重 在富山モンゴル国名誉領事、通訳
目的	設立の経緯をうかがい、日本式高専教育の現状と今後の交流の可能性について理解を深める

設立の経緯（ガルバドラフ議員）

冒頭、ガルバドラフ議員から学校設立に至る経緯の説明があった。議員は 32 歳のとき、私費留学生として家族とともに来日し、山形大学で学んだのち東北大学に進み、高等学校の改革を研究した。山形の「柱一本の会」をはじめ、山形の多くの方々の支援により新モンゴル学園を設立することができたという。現在も名古屋大学の博士課程で学び続けている。モンゴルの高専は地方にも広がり、2023 年には地方のダルハン・オール県、オルホン県（エルデネト）、ウムヌゴビ県の 3 県にある高等教育機関で高専課程が始まった。議員は国会開会のため、説明の後に退席された。

学校の概要（校長）

2014 年に設立された、日本の高専をモデルにした学校で、「自らの手で国をつくる」を合い言葉としている。中学校（9 年生）を修了した 15 歳が入学し、5 年間で高校教育と工学の専門教育を一貫して学び、20 歳で準学士の学位を得る。専攻は機械工学、電気・電子、化学工学、建設・インフラ、コンピュータサイエンスの 5 つで、学生は 600 人以上、教員は 60 人以上、校舎は 10 階建て。2020 年にはモンゴルの高専として初めて認証評価（第三者による教育の質の評価）を受けた。

教育の特色として、「体の教育」「知の教育」「心の教育」の 3 つを柱とする「黄金の三角形」を掲げる。5 年間の総単位数は機械工学で 177 単位（127 科目）。日本の高専機構（苫小牧高専が幹事校）による教育支援を受けており、2025 年 2 月からは日本の IT 企業による出前授業も行われている。卒業生には日本の企業で活躍する人もいる。

主な論点

- 日本式教育・高専の意義を、実績とともに発信していくこと
- 日本の高専・企業・自治体との教員研修や出前授業などの連携の継続
- 卒業生が日本の企業や大学で活躍できる道の拡大、地方の高専を含めたモンゴル高専全体での人材育成



新モンゴル学園の校舎



卒業生の進路の展示



天皇陛下ご訪問時の展示



ガルバドラフ議員による説明



ガルバドラフ議員との記念撮影



学校紹介



教職員紹介パネルの説明



化学実験の授業



授業の様子



FAB LAB の見学



学校関係者との記念撮影



校舎前にて

12:00～ エンフアムガラ教育大臣との会談

場所	モンゴル教育省（ウランバートル、政府庁舎 3 号館）
面会者	ロブサンツェレン・エンフアムガラ 国会議員・教育大臣 エンフバヤル・バータルツォル 教育省 対外関係局
日本側	日本側訪問団（小竹団長ほか国会議員 4 名・秘書 1 名）、藤重 在富山モンゴル国名誉領事、通訳
目的	高専を軸にした日本との教育・技術・人的交流について意見交換する

教育大臣の経歴

フブスグル県の出身。ロシア、米国、韓国の大学で学び、国営通信社モンツァメでの勤務を経て、1996 年にインタープレス社を設立し、2012 年までユニテル・グループや MCS エレクトロニクスの取締役会長等を務めた。2012 年に首相顧問を経て国会議員となり、国会副議長、教育科学大臣、家族・労働・社会保障大臣などを歴任し、現在は教育大臣を務めている。

会談の内容

高専を軸に日本との教育・技術・人的交流を進めたいとする日本側議員の考えに対し、教育大臣も同じ考えであり、意見が一致した。

また大臣は、労働・社会保障大臣を務めた経験から、日本で働くモンゴルの人材の帰国について問題意識を持っており、優秀な人が日本で経験を積んだ後に自国へ帰って貢献できる仕組みを検討すべきとの意見が述べられた。

主な論点

- 高専を軸とした日本との教育・技術・人的交流の推進（双方の考えが一致）
- 日本で働く優秀な人材が帰国して自国に貢献できる仕組みの検討



教育大臣との会談



会談の様子



教育大臣との記念撮影

14:00～ モンゴル国会（国家大会議）

場所	モンゴル国会議事堂（政府宮殿）（ウランバートル、スフバートル広場）
面会者	ウフナー・オトゴンバイヤル 国会議員（人民党議員団 副団長） ジャンチブ・ガルバドラフ 国会議員 ナツァグドルジ・バトスンベレル 国会議員 国会見学の際：ビャンバツォグト国会議長、与党議員
日本側	日本側訪問団（小竹団長ほか国会議員 4 名・秘書 1 名）、藤重 在富山モンゴル国名誉領事、通訳
内容	国会議事堂の見学・記念撮影、与党議員との意見交換

高専の新設と日本への期待

オトゴンバイヤル議員から、ヘンティ県とスフバートル県に高専を設立したいとの希望が示され、JICA（国際協力機構）などを通じて、日本から設計図や機械設備などの支援を受けたいとの要望があった。日本とは、高専にとどまらず「第三の隣国」として非常に信頼しており、関係を強めたいとの話があった。あわせて、日本の ODA の減額に対する懸念、日本の技術や日本企業のモンゴル進出への後押し、ウランバートルだけでなく地方にも目を向けてほしいとの要望が述べられた。

モンゴルの国内状況

国会の運営をめぐる与野党の状況や、ガソリンなどの燃料の供給が市民生活に大きく影響していることについて説明があった。日本側からは、モンゴルの議員定数が現在の 126 議席となった経緯について質問した。

国会見学

その後、議事堂内を見学した。与党議員が国会議長とともに会議の場を設け、中継カメラの前で訪問団を紹介してくださった。外務大臣をはじめ国会議員の皆さんが手を振って、訪問団を温かく迎えてくださった。

主な論点

- ヘンティ県・スフバートル県への高専設立に向けた協力（JICA 等を通じた設計図・機械設備の支援）
- 日本の技術・日本企業のモンゴル進出の後押し
- ウランバートル以外の地方の教育・産業への目配り



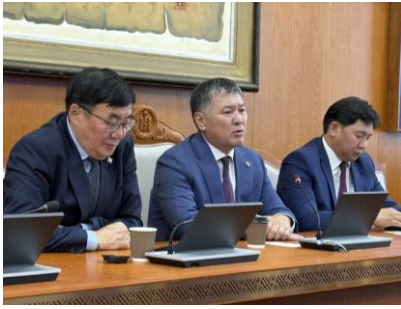
議事堂内の見学



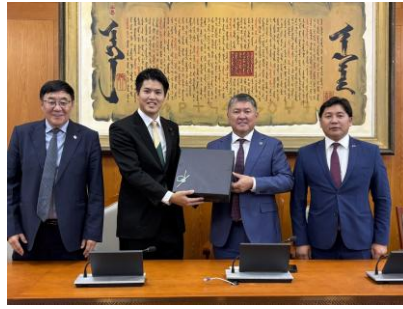
議事堂内にて



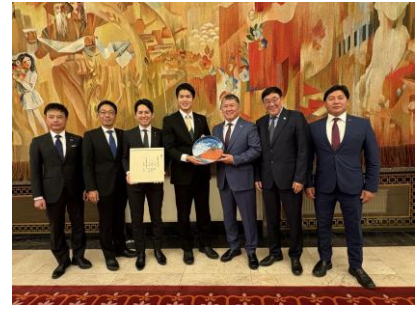
与党議員との意見交換



意見交換の様子



記念品の贈呈



与党議員との記念撮影

17:40 頃～ INSURCO DAATGAL（日系損害保険会社）

場所	INSURCO DAATGAL（ウランバートル、Eco International Tower）
面会者	Tomohiko UEMURA 取締役会長 SOLONGO.B CEO ガンビャンバ・ドゥルグーン モンゴル東部地域持続可能開発協会（NGO）理事長（同席）
日本側	日本側訪問団（小竹団長ほか国会議員 4 名・秘書 1 名）、藤重 在富山モンゴル国名誉領事、通訳

モンゴルで事業を展開する日系の損害保険会社 INSURCO DAATGAL を訪問し、意見交換を行った。



意見交換の様子



意見交換の様子



記念撮影

第 3 章 総括と今後の取り組み

Summary and Next Steps

3-1 訪問全体を通じた主な論点

① 「第三の隣国」日本への信頼と期待

大使館、モビコム社、国会議員のいずれからでも、モンゴルが日本を「第三の隣国」として重視しているとの説明があった。サイバーセキュリティや重要インフラを含め、信頼できる協力相手として日本への期待は大きい。モビコム社の 30 年にわたる実績が国民レベルの信頼につながっていることも確認できた。

② 高専を軸とした人材育成

訪問先のほぼすべてで高専が話題となった。モンゴルの高専は 6 校に広がり、2023 年の法改正で準学士の学位授与も制度化されている。教育大臣とは高専を軸とした交流の推進で意見が一致し、国会議員からは地方への高専新設の希望が示された。日本式教育の価値を、実績とともに伝えていくことが重要である。

③ 人材の還流

モンゴルコーセン技術カレッジの「帰国還元」の考え方と、教育大臣の「日本で経験を積んだ優秀な人材が帰国して貢献できる仕組み」への問題意識は共通している。留学・就業・帰国という人材の循環を支える仕組みづくりが、今後の協力の重要なテーマとなる。

④ エネルギーと経済・投資環境

燃料の安定供給、電力、水素・再生可能エネルギーが課題として挙げられた。経済面では、租税条約の締結、ODA 減額を踏まえた PPP 事業への日本企業の参画、物流コストへの対応が指摘され、グリーンゲートウェイ構想や鉱物資源の加工など新たな協力分野も示された。

⑤ 地方への目配り

バートル元大統領と国会議員の双方から、ウランバートルだけでなく地方にも目を向けるよう助言・要望があった。国土が広大なモンゴルの実情を理解するうえで、地方の視察と地方への協力は欠かせない。

3-2 今後の取り組み

No.	取り組み	内容	関連する訪問先
1	モンゴルの議員連盟への加入	訪問団として加入を検討する	外務省
2	国交樹立 55 周年に向けた交流	人を基盤・中心とした交流を進める	大使館、外務省
3	ジュニア柔道交流の双方向化	日本からモンゴルへジュニアチームを派遣し、合同トレーニングを行う	バトトルガ元大統領
4	次回訪問での地方視察	地方の視察をプログラムに組み込む	バトトルガ元大統領、国会
5	高専と通信インフラを組み合わせた連携	高専を軸とした教育協力に通信・インフラの知見を組み合わせた連携案を、文部科学委員会などで検討する	バトトルガ元大統領、教育大臣
6	地方の高専新設への協力	ヘンティ県・スフバートル県の高専設立に向け、JICA 等を通じた支援の可能性を検討する	国会
7	人材還流の仕組みづくり	日本で働く優秀な人材が帰国して貢献できる仕組みを検討する	教育大臣、モンゴルコーセン
8	租税条約の締結に向けた働きかけ	日本からの直接投資を進めるための法的な土台づくり	モビコム社
9	エネルギー・デジタル分野の協力	電力・水素・再生可能エネルギー、データセンター等への日本の技術の活用	大使館、モビコム社、外務省
10	政策対話の継続	関係機関と随時情報交換できる連絡体制を維持する	バトトルガ元大統領

3-3 おわりに

短い日程ではありましたが、政府、議会、教育機関、企業、そして元大統領と、立場の異なる多くの方々から直接お話をうかがうことができました。そこから見てきたのは、モンゴルの人々が日本に寄せる厚い信頼と、それが通信事業や高専教育、留学経験者など、長年にわたる人と人とのつながりの上に築かれてきたという事実です。

来年は国交樹立 55 周年という節目を迎えます。今回得た人脈と知見を生かし、高専を軸とした人材育成と人材の還流、スポーツ交流、議会間の対話を着実に積み重ねていくことが、両国の「平和と繁栄のための特別な戦略的パートナーシップ」をさらに深めることにつながると考えております。

最後になりましたが、本視察の実施にあたり、ウフナー・オトゴンバイル国会議員、バンズラグチ・バイルサイハン駐日モンゴル国特命全権大使、ガンビャンバ・ドゥルグーン氏には、多大なるご支援と貴重なご助言を賜りました。とりわけ、東部 3 県の NGO「モンゴル東部地域持続可能開発協会」理事長のドゥルグーン氏には、懇談へのご同席をはじめ、滞在中の移動からお食事に至るまで多方面から温かくお支えいただき、訪問団一同、大変心強く過ごすことができました。皆様のお力添えに、心より厚く御礼申し上げます。

資料編

Appendix

資料 1 モンゴル国の基本情報

国土と人口

国名	モンゴル国（Mongolia）
首都	ウランバートル
国土面積	156 万 4,100km ² （日本の約 4 倍）
行政区画	21 アイマグ（県）＋首都ウランバートル市。県は 330 ソム（郡）・1,647 バグ（村）、首都は 9 区・204 ホローからなる
総人口	約 359.1 万人（2025 年、在外国民を含む）
人口密度	2.2 人/km ² （世界で最も低い水準）
首都人口	1,673,279 人（全国の 48.9%）
民族	モンゴル人（全体の 95%）およびカザフ人等
言語・宗教	モンゴル語（公用語）、カザフ語／モンゴル仏教（チベット仏教）等

政治体制

政体	共和制（大統領制と議院内閣制の併用）
元首	ウフナー・フレルスフ大統領（2021 年 6 月就任、任期 6 年）
議会	国家大会議（一院制・定数 126・任期 4 年）
国会議長	サンダギ・ビャンバツォグト氏（2026 年 4 月就任）
首相	ニャムオソル・オチラル（ウチラル）氏（2026 年 3 月就任）

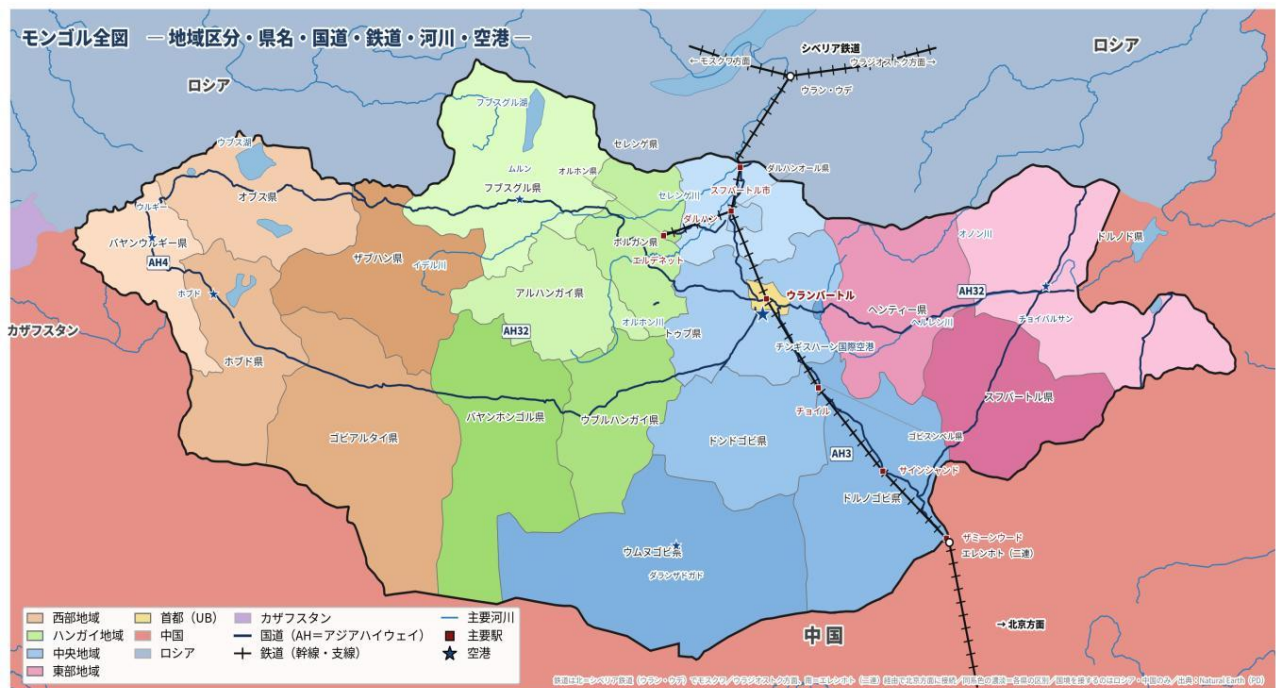
経済・社会指標

GDP	約 202.6 億米ドル（2025 年）
一人当たり名目 GDP	6,898 米ドル（2024 年）
経済成長率	6.8%（2025 年）
インフレ率	7.5%（2025 年）
貿易総額	約 270.1 億米ドル（輸出 157.0 億／輸入 113.1 億、2025 年）
主要輸出品	鉱物資源（石炭、銅精鉱、蛍石など）、牧畜産品（カシミア、羊毛、皮革など）
主要輸入品	石油製品、機械設備類、自動車、食料品
主要輸出先	中国、スイス、米国、イラン、ロシア（2025 年）
主要輸入元	中国、ロシア、日本、韓国、米国（2025 年）

日本との関係

外交関係	1972 年 2 月樹立。2022 年 11 月「平和と繁栄のための特別な戦略的パートナーシップ」へ
EPA	日・モンゴル経済連携協定 2016 年 6 月発効（モンゴルにとって初の EPA）
貿易額	約 1,498.2 億円（日本→モンゴル 1,474.2 億円／モンゴル→日本 24.0 億円）
日本の主要輸出品	自動車、一般機械、建設・鉱山用機械
日本の主要輸入品	鉱物資源（蛍石）、繊維製品、一般機械
ODA	円借款 1,829.44 億円／無償資金協力 1,287.16 億円／技術協力 603.77 億円（2023 年度まで）
進出日系企業	226 拠点（2024 年 10 月）
在留邦人	337 人（2025 年 6 月）
在日モンゴル人	21,186 人（2025 年 6 月）
最近の要人往来	2025 年 7 月 天皇皇后両陛下がモンゴルを御訪問

出典：外務省、モンゴル国家統計局（NSO）、モンゴル中央銀行、法務省 等



モンゴル全図（地域区分・県名・国道・鉄道・河川・空港） 出典：訪問団配布用「モンゴル国 概要資料」（2026 年 9 月）

資料2 モンゴル国会（国家大会議）の構成

- 国家大会議は一院制で、定数は 126。2023 年 6 月の憲法改正で定数が 76 から 126 に増え、2024 年 6 月の総選挙から適用された。
- 内訳は、選挙区（13 の複数定数選挙区）で 78 人、比例代表で 48 人。任期は 4 年。

政党別の議席数（第 9 期、2024 年 6 月総選挙）

政党	議席数
モンゴル人民党（MPP）	68
民主党（DP）	42
フン党（人間党、HUN）	7
国民連合（NC）	4
市民の意志・緑の党（CWGP）	4
無所属	1

2026 年 3 月より、人民党・フン党・国民連合の 3 党による連立政権。

資料3 モンゴル国会議員名簿

第 9 期（2024 年 6 月総選挙で選出、任期 2024 年 7 月～2028 年）。日本語表記は一部推定を含む。

モンゴル人民党（MPP） 68 名

氏名	英字表記	選挙区	氏名	英字表記	選挙区
バトムフ・バトツェツェグ	Batmönkhiin Battsetseg	1 区	ジグジドスレン・チンブレン	Jigjidsürengiin Chimbüren	8 区
ガンゾリグ・テムーレン	Ganzorigiin Temüülen	1 区	バトツムル・エンフバヤル	Battömöriin Enkhbayar	8 区
サンダグ・ビャンバツォグト	Sandagiin Byambatsogt	2 区	ハスソーリ・ガンホヤグ	Khassuuri Gankhuyag	9 区
ダシゼベグ・アマルバヤスガラ ン	Dashzegviin Amarbayasgalan	2 区	ジャムバル・ガンバートル	Jambalyn Ganbaatar	9 区
バトトグトフ・チョイジルスレ ン	Battogtokhyn Choijilsüren	2 区	ニヤムオソル・オチラル	Nyam-Osoryn Uchral	10 区
バトジャルガル・ザヤーバル	Batjargalyn Zayaabal	2 区	オトゴンシャル・バトナイラム ダル	Otgonsharyn Batnairamdal	10 区
ザグドジャブ・メンドサイハン	Zagdjavyn Mendsaikhan	2 区	ナツァグドルジ・バトスンベレ ル	Natsagdorjiin Batsumberel	10 区
エンフバト・ボロルマー	Enkhbatyn Bolormaa	2 区	ダムディ・ツォグトバートル	Damdiny Tsogtbaatar	10 区
ハジェクビエル・ジャンガブル	Khajekbyeriin Jangabyl	3 区	エンフバヤル・バトショガル	Enkhbayaryn Batshugar	11 区
チリエウハ・アウバキル	Tilyeukhany Aubakir	3 区	ナランツェツェ・アルタンシャ ガイ	Narantsetsegiin Altanshagai	11 区
ロブサンツェレン・エンフアム ガラ	Lusantserengiin Enkh-Amgalan	4 区	プレブジャブ・サインゾリグ	Pürevjavyn Sainzorig	11 区
ダムバ・バートル	Dambyn Batlut	4 区	チンバト・ノミン	Chinbatyn Nomin	11 区
バト・ウルジー・バトエルデネ	Bat-Ölziin Bat-Erdene	4 区	トグトモル・ムンフサイハン	Togtmolyn Mönkhsaikhan	12 区
ドルジスレン・ウーリーントヤ ー	Dorjsürengiin Üüriintuyaa	4 区	ジュコブ・アルダルジャブフラ ン	Jukovyn Aldarjavkhlan	12 区
ルハグブ・ムンフバートル	Lkhagvyn Mönkhbaatar	4 区	サインボヤン・アマルサイハン	Sainbuyangiin Amarsaikhan	13 区
ジャダムバ・バトエルデネ	Jadambyn Bat-Erdene	4 区	ツェンド・サンダグオチル	Tsendiin Sandag-Ochir	13 区
ツェレンビル・ダワースレン	Tserenpiliin Davaasüren	4 区	ガンゾリグ・ルブサンジャムツ	Ganzorigiin Luvsanjamts	比例
ボルド・ジャブフラン	Boldyn Javkhlan	5 区	ムンフチュル・エンフツェツ ェグ	Mönkhchuluuny Enkhtsetseg	比例

氏名	英字表記	選挙区	氏名	英字表記	選挙区
ジャダンバ・エンフバヤル	Jadambyn Enkhbayar	5 区	チンバータル・アナル	Chinbaataryn Anar	比例
ボヤー・トルガ	Buyaagiin Tulga	5 区	オトゴ・サランチュルーン	Otgoni Saranchuluun	比例
ゴンゴル・ダムディンニヤム	Gongoryn Damdinnyam	5 区	ドゥゲル・レグデル	Dügeriin Regdel	比例
スレンジャブ・ルンデグ	Sürenjavyn Lündeg	5 区	ダバーサムブー・ガンマー	Davaasambuugiin Ganmaa	比例
チンバト・ウンドラム	Chinbatyn Undram	5 区	スフバータル・エルデネバト	Sükhbaataryn Erdenebat	比例
ジグジド・バトジャルガル	Jigjidiin Batjargal	5 区	メンドバヤル・マンダハイ	Mendbayaryn Mandkhai	比例
ロブサンナムスライ・オヨーンエルデネ	Luvannamsrain Oyun-Erdene	6 区	ダシツェレン・エンフトゥブシン	Dashtserengiin Enkhtüvshin	比例
ミヤグマルスレン・バダムスレン	Myagmarsürengiin Badamsüren	6 区	ボルド・オヤンガ	Boldyn Uyanga	比例
ツァガーンフー・イデルバト	Tsagaankhüügiin Iderbat	6 区	ジャンチブ・ガルバドラフ	Janchivyn Galbadrakh	比例
ウフナー・オトゴンバヤル	Ukhnaagiin Otgonbayar	6 区	アユーシ・アリオンザヤ	Ayuushiin Ariunzaya	比例
ルハグバスレン・ソロンゾンボルド	Lkhagvasürengiin Soronzonbold	6 区	バヤルマグナイン・バヤルバータル	Bayarmagnain Bayarbaatar	比例
ムングンツォ・ガンフレグ	Möngöntsogiin Gankhüleg	6 区	バダルチ・ヘルレン	Badarchiin Kherlen	比例
ボルフー・デルゲルサイハン	Borkhüügiin Delgersaikhan	7 区	ドゥラム・ボムオチル	Dulamyn Bum-Ochir	比例
ナンザド・ナランバータル	Nanzadyn Naranbaatar	7 区	オドスレン・ノミンチメグ	Odsürengiin Nominchimeg	比例
エンフタイバ・バトアムガラ	Enkhtaivany Bat-Amgalan	8 区	サルハド・ズルブハル	Sarkhadyn Zulpkhar	比例
フレルバータル・ボルガントヤ	Khürelbaataryn Bulgantuya	8 区	フレルバータル・バーサンジャルガル	Khürelbaataryn Baasanjargal	比例

民主党（DP） 42 名

氏名	英字表記	選挙区	氏名	英字表記	選挙区
オヨーンサイハン・アルタンゲレル	Oyunsaikhany Altangerel	1 区	ゴムブ・ガンバータル	Gombyn Ganbaatar	7 区
サインフー・ガンバータル	Sainkhüügiin Ganbaatar	1 区	ツェンド・バータルフー	Tsendiin Baatarkhüü	10 区
ブレブバータル・ムンフトルガ	Pürevbaataryn Mönkhulga	1 区	フフフー・ボロルマー	Khökhkhüügiin Bolormaa	10 区
ダシドンド・ガンバト	Dashdondogiin Ganbat	1 区	ノロブ・アルタンホヤグ	Norovyn Altankhuyag	11 区
ガンバト・ホスバヤル	Ganbatyn Khosbayar	1 区	チュルーンビレ・ロドイサンボ	Chuluunbilegiin Lodoisambuu	12 区
ダムディンスレン・ジャルガルサイハン	Damdinsürengiin Jargalsaikhan	1 区	ヒシグデムベレル・テムージン	Khishigdembereliin Temüüjin	比例
ダバー・ツォグトバータル	Davaagiin Tsogtbaatar	1 区	バダムドルジ・プンサルマー	Badamdorjiin Punsalmaa	比例
オドン・ツォグトゲレル	Odongiin Tsogtgere	2 区	エルデネビレグ・オドバヤル	Erdenebilegiin Odbayar	比例
ブフチュルー・ブレブドルフ	Bökhchuluuny Pürevdorj	2 区	ブレブ・バトチメグ	Püreviin Batchimeg	比例
バンズラグチ・トゥブシン	Banzragchiin Tüvshin	2 区	ガンバト・オチルバト	Ganbatyn Ochirbat	比例
オチルバト・アムガラバータル	Ochirbatyn Amgalanbaatar	2 区	バトバヤル・ジャルガラ	Batbayaryn Jargalan	比例
ブラ・ベイセン	Bulany Byeisyyen	3 区	アムガラバータル・ガンバータル	Amgalanbaataryn Ganbaatar	比例
ハルトマーギン・バトトルガ	Khaltmaagiin Battulga	4 区	ツェンドスレン・ムンフトヤ	Tsendsürengiin Mönkhutuya	比例
ツェベグドルジ・トワーン	Tsevegdorjiin Tuvaan	5 区	ロブサンニヤム・ガントウムル	Luvannyamyn Gantömör	比例
ダライン・バトバヤル	Dalain Batbayar	5 区	サルダン・オドントヤ	Saldangiin Odontuyaa	比例
スフバータル・エルデネボルド	Sükhbaataryn Erdenebold	5 区	ジャンバ・バトソーリ	Jambyn Batsuuri	比例
シネバヤル・ビャンバスレン	Shinebayaryn Byambasüren	6 区	サルールサイハ・ツェングーン	Saruulsaikhany Tsengüün	比例
レンチンビヤムブ・セドドルジ	Renchinbyambyn Seddorj	7 区	ウルジーフー・シジル	Ölziikhüügiin Shijir	比例
ロブサンビヤムバー・ムンフバヤスガラ	Luvannyambaagiin Mönkhbayasgalan	7 区	ジュダ・バヤルマー	Judagiin Bayarmaa	比例
ツァガーンフー・ムンフバト	Tsagaankhüügiin Mönkhbat	7 区	ジャダムバー・バヤスガラ	Jadambaagiin Bayasgalan	比例
ラヴジフ・エルデネブレン	Ravjikhyn Erdenebüren	7 区	ドルジゾブド・エンフトヤ	Dorjzovdyn Enkhtuya	比例

フン党（HUN） 7 名

氏名	英字表記	選挙区	氏名	英字表記	選挙区
ブレブスレン・ナランバヤル	Pürevsürengiin Naranbayar	8 区	ゴンチグドルジ・オヤンガヒシグ	Gonchigdorjiin Uyangakhishig	比例
トグミド・ドルジハンド	Togmidyn Dorjkhand	比例	バドラフ・ナイダラー	Badrakhyn Naidalaa	比例
ルター・エンフナサン	Lutaagiin Enkhnasan	比例	バートルジャブ・ムンフソヨル	Baatarjavyn Mönkhsoyol	比例
ブレブジャブ・ガンゾリグ	Pürevjavyn Ganzorig	比例			

国民連合（NC） 4 名

氏名	英字表記	選挙区	氏名	英字表記	選挙区
ニヤムタイシル・ノムトイバヤル	Nyamtaishiryin Nomtoibayar	比例	ダバーフー・ブレブダワー	Davaakhüügiin Pürevdavaa	比例
アグバーンルブサン・ウンドラー	Agvaanluvsangiin Undraa	比例	ミヤグマルダシ・サルナイ	Myagmardashiin Sarnai	比例

市民の意志・緑の党（CWGP） 4 名

氏名	英字表記	選挙区	氏名	英字表記	選挙区
バト・バトバートル	Batyn Batbaatar	比例	リンチンドルジ・バトボルド	Rinchindorjiin Batbold	比例
ムンフツル・ナラントヤ-ナラ	Mönkhtöriin Narantuya-Nara	比例	ソングバイ・ザミラ	Songobaigiin Zamira	比例

無所属 1 名

氏名	英字表記	選挙区
ジャルガルサイハ・ゾルジャルガル	Jargalsaikhany Zoljargal	9 区

資料 4 モンゴル要人紹介

ハルトマーギーン・バトトルガ 第 5 代モンゴル国大統領・国会議員（民主党）



X.Баттулга / Kh. Battulga

1963 年ウランバートル生まれ。1982 年にモンゴル美術学校（絵画）を卒業。サンボの選手として活躍し、1983 年の世界選手権（52kg 級）で金メダルを獲得した。引退後は実業家として「ジェンコ（Genco）」社を創業し、バヤンゴルホテルなどを経営した。2004 年に民主党から国会議員に初当選し（2016 年まで）、道路・運輸・建設・都市開発大臣（2008～2012 年）、工業・農業大臣（2012～2014 年）を歴任。2017 年 7 月から 2021 年 6 月まで第 5 代モンゴル国大統領を務めた。2024 年の総選挙で再び国会議員に当選（第 4 選挙区）。2006 年から全モンゴル柔道連盟の会長を務め、同国初の五輪柔道金メダリストの輩出を支えた。

ブフチュルー・プレブドルフ 国会副議長（民主党）



Б.Пүрэвдорж / B. Pürevdorj

1994 年にモンゴル国立大学国際関係大学院で英語教師・翻訳を専攻し卒業。1995 年から 2009 年まで税関総局に勤務し、バヤンウルギー、ボヤントオハー（ウランバートルの国際空港）、ウランバートル市の各税関で検査官および部長を務めた。2009 年から 2012 年まで民主党ホブド県支部長、2012 年から 2014 年まで外国人・国籍問題庁長官、2014 年から 2015 年まで国籍・出入国管理総局長を歴任。2016 年に国会議員となり、2020 年、2024 年と再選。2024 年より国会副議長。2009 年に北極星勲章を受章。

ロブサンツェレン・エンフアムガラ 教育大臣（人民党）



Л.Энх-Амгалан / L. Enkh-Amgalan

1987 年にフブスグル県ムルン市の第 2 中等学校を卒業し、1992 年にロシアのサンクトペテルブルク大学、1996 年に米国のダコタ大学、2002 年に韓国の漢陽大学を修了。モンツァメ通信社「イル・トブチャー」紙の責任書記を経て、1996 年にインタープレス社を設立、同年から 2012 年までユニテル・グループおよび MCS エレクトロニクスの取締役会長、MCS グループ第一副社長を務めた。2012 年に首相顧問を経て国会議員となり、2016 年、2020 年、2024 年と再選。国会副議長（2017～2020 年）、教育科学大臣（2021～2024 年）、家族・労働・社会保障大臣（2024～2025 年）を経て、2026 年より教育大臣。

ジャンチブ・ガルバドラフ モンゴル・日本議員連盟会長（人民党）



Ж.Галбадрах / J. Galbadrakh

1986 年にモンゴル国立大学を卒業（物理教師）、1999 年に山形大学で教育学の修士、2016 年にモンゴル国立教育大学で教育学の博士号を取得。東北大学の博士課程でカリキュラムを、2019 年からは名古屋大学で教育経営学の博士課程に学ぶ。2000 年に新モンゴル普通教育学校を創設し 2014 年まで校長、2014 年より新モンゴル学園長。2024 年に国会議員となった。2017 年に旭日章を受章。日本語に堪能。

ウフナー・オトゴンバイル 国会議員（人民党）



У.Отгонбаяр / U. Otgonbayar

2006 年にモンゴル国立大学を卒業し、2014 年にニューイングランド大学で経営学の修士を取得。工業商業省、食糧農牧軽工業省・中小企業庁次長、建設都市開発省の統合政策計画局長・行政管理局長などを歴任。2024 年に国会議員となり、同年より国会人民党会派の副会派長。

ガンビャンバ・ドゥルグーン モンゴル東部地域持続可能開発協会 理事長



Г.Дэлгээн / G. Dulguun

2008 年にモンゴル国立大学国際関係学部を卒業（国際経済学専攻）し、2015 年にルクセンブルク大学で銀行・金融学の修士号を取得。2006 年から 2007 年まで「ジョノン保険」でマネージャーを務めた。2008 年から 2010 年までモンゴル銀行決済局で会計士、2010 年から 2013 年まで同行監督検査部で検査官を務めた。2014 年から 2015 年までルクセンブルクの資産運用会社シュローダーズで研修生として勤務し、2015 年から 2016 年までモンゴル銀行上級検査官。2016 年から 2018 年までモンゴル開発銀行副頭取兼リスク評価・管理局長、2018 年から国家銀行頭取（CEO）を務め、2020 年 5 月、国会の任命によりモンゴル銀行第一副総裁に就任した。現在はモンゴル東部地域持続可能開発協会（NGO）の理事長を務めている。

写真：モンゴル国家大会議（ドゥルグーン氏を除く）

資料5 モンゴルの高専（技術カレッジ）

技術カレッジ（ウランバートル市・3校／2014年開校）

日本の高専をモデルに設立された中核3校。在籍計1,364名、卒業生計672名

学校名	設置・規模	学科・日本側の連携高専
モンゴル工業技術大学付属 モンゴルコーセン技術カレッジ	私立／2013年12月設立 在籍349名、教員45名 卒業生265名	電気／機械／建設／バイオ／コンピューター（5学科） 連携：苫小牧・佐世保（機械）、苫小牧（電気・建設・情報技術）、苫小牧・沖縄・八戸・都城（バイオ）
新モンゴル技術カレッジ	私立／2014年9月設立 在籍590名、教員51名 卒業生286名	電気・電子／機械／化学／建設／情報技術（5学科） 連携：大分（機械・電気）、徳山（建設）、佐世保（化学）、木更津（情報技術）
モンゴル国立科学技術大学付属 技術カレッジ	国立／2014年12月設立 在籍425名、教員26名 卒業生121名	電気・電子／機械／建設／情報技術（4学科） 連携：久留米・明石・阿南（機械）、明石・久留米・長岡（電気）、苫小牧・阿南・松江（建設）、木更津（情報技術）

高専課程を導入した地方の高等教育機関（3機関／2023年5月導入）

機関名	所在地	在籍者（高専課程）
モンゴル国立生命科学大学 ダルハンオール県分校	ダルハン・オール県	55名
モンゴル国立科学技術大学付属 オルホン県エルデネト専門大学	オルホン県エルデネト市	109名
モンゴル国立科学技術大学付属 ウムヌゴビ技術専門大学	ウムヌゴビ県ダランザドガド	92名

制度と日本の支援

- 中学校卒業後の5年制で、修了により準学士の学位を取得する（国際標準教育分類レベル5相当）。学士課程へ編入する際は90単位まで認定される。
- 日本の高専の「準学士」は称号であり学位ではない。日本では、高専本科卒業生への学位授与に向けた制度改正の検討が進められている。
- 3校の卒業生は2019年の第一期以降で計672名。進路はモンゴルで就職27.2%、日本で就職25.1%、国内進学14.0%、海外進学12.6%（うち日本9.7%）、その他21.0%。
- 国立高等専門学校機構が2016年にウランバートルにリエゾンオフィスを設置し、苫小牧高専を幹事校とする計10校が教員研修・教材開発を支援。JICAは2014年から工学系高等教育支援事業を実施。
- 2025年7月9日、天皇皇后両陛下がモンゴルコーセン技術カレッジを視察された。

資料 6 面会者一覧

日付	氏名	所属・役職
9 月 16 日	井川原 賢	在モンゴル日本国大使館 特命全権大使
	森井 怜	在モンゴル日本国大使館 総務・政務班長
	篠田 泉	在モンゴル日本国大使館 総務・政務班／開発協力班 三等書記官
	越智 康博	Mobicom Corporation LLC CEO・取締役
	OYOSHI Kota	Mobicom Corporation LLC COO
	オユンフー・オトゴンバートル	モンゴル外務省 アジア局 アタッシュェ
	ムンフオチル・セルゲレン	モンゴルコーセン技術カレッジ 校長
	新藤 篤史	モンゴルコーセン技術カレッジ 客員教授
	グンチンスレン・バヤルジャルガル	モンゴルコーセン技術カレッジ 外交マネージャー
	ゲレル・ウルジーナラン	モンゴルコーセン技術カレッジ キャリア担当
	ハルトマーギーン・バトトルガ	第 5 代モンゴル国大統領、全モンゴル柔道連盟 会長
	ガンビャンバ・ドゥルグーン	モンゴル東部地域持続可能開発協会（NGO） 理事長
9 月 17 日	ジャンチブ・ガルバドラフ	モンゴル国会議員
	ツムルバタル・オユンジャルガル	新モンゴル高専技術カレッジ 校長
	ムンフチメグ・バトサイハン	新モンゴル高専技術カレッジ 対外関係・協力担当マネージャー
	ナサンバヤル・ボロルマー	新モンゴル学園 国際交流課長
	ロブサンツェレン・エンフアムガラ ン	モンゴル国会議員・教育大臣
	エンフバヤル・バートルツォル	モンゴル教育省 対外関係局
	ウフナー・オトゴンバヤル	モンゴル国会議員（人民党議員団 副団長）
	ナツァグドルジ・バトスンベレル	モンゴル国会議員
	サンダギ・ビャンバツォグト	モンゴル国会議長
	Tomohiko UEMURA	INSURCO DAATGAL（日系損害保険会社）取締役会長
	SOLONGO.B	INSURCO DAATGAL（日系損害保険会社）CEO
9 月 16 日・17 日	URANGO Bugaa	モンゴル デジタル開発・イノベーション・通信省 上級デジタル経 済政策担当官
	吉澤 智也	学校法人タイケン学園 日本ウェルネススポーツ大学 特任講師
	星 哲哉	スターエンジニアリング株式会社 代表取締役

敬称略。所属・役職は訪問時のもの。「9 月 16 日・17 日」は、訪問期間中に名刺を交換した方。

モンゴル国ウランバートル視察訪問 報告書

2026 年 9 月 15 日～18 日

在富山モンゴル国名誉領事館